

SG550XGおよびSG350XGスイッチの自動番号付け

目次

- [機能の概要](#)
- [スタッキングトポロジ](#)
- [Web設定](#)
- [スタック管理](#)

目的

自動番号付けスタッキングメカニズムは、デバイスのMACアドレスに基づいて、各ユニットに特定の一意のスタックユニットIDを自動的に割り当てるために使用されます。これは、各スタックのユニットID番号を手動で設定しなくても、スタック内にSG550XGまたはSG350XGをシームレスに統合するのに便利です。

このドキュメントの用語に慣れていない場合は、[Cisco Business:新用語一覧](#)。

このドキュメントの目的は、デバイスに自動番号付けを設定する方法を示すことです。

自動番号付けの完全なデモンストレーションについては、次のビデオをご覧ください。

該当するデバイス

- SG550XG
- SG350XG

[Software Version]

- v2.0.0.73

自動番号付け

機能の概要

自動番号付けは、デバイスのMACアドレスに基づいて、各ユニットに特定のスタックユニットIDを自動的に割り当てるために使用されます。スタックトポロジ内で4台のSG550XGスイッチを接続する場合、次の2つの観察を行うことができます。これらのデバイスは自動的に1つのスタックに統合され、各デバイスには自動的に番号が付けられます。

注：SG350XGスイッチのスタックでは、SG550XGスイッチのスタックと同様に自動番号付けが機能します。

スタッキングトポロジ

この一連のスイッチで使用できるスタッキングトポロジには、次の2種類があります。リングとチェーン。このチュートリアルでは、リングトポロジを使用します。

リングトポロジでは、すべてのスイッチが閉じたループで相互に接続されます。各ユニットは、両側の2つの他のコンポーネントに接続され、これら2つの隣接するネイバーと通信します。リングトポロジを使用する利点は、スタック内の接続に障害が発生しても、スタックがアクティブのままになることです。

Web設定

ステップ1: Web構成ユーティリティにログインし、[管理(Administration)] > [スタック管理(Stack Management)]をクリックします。このページでは、現在のスタックトポロジを表示し、どのユニットがスタックプライマリであるかを確認できます。

ステップ2: GUIで、ポートをクリックしてスタックポートとして指定します。スタックポートは、スタック内の他のユニットと通信するためにスイッチによって使用されます。少なくとも2つのスタックポートを選択する必要がありますが、スイッチ上の任意のポートがスタックポートになる可能性があることに注意してください。

注: [リセット後のユニットID]フィールドが[自動]に設定されていることを確認します。

ステップ3: [Apply and Reboot]をクリックして変更を保存します。トポロジ内の他のすべてのスイッチに対してこのプロセスを繰り返します。

スタック管理

自動番号付けアルゴリズムは、最小のMACアドレスを持つデバイスを最小のユニット番号(ユニット1)に設定します。このアルゴリズムの結果は、スタックが設定されると、[スタック管理]ページで確認できます。このページでは、トポロジ内のスイッチを選択して、そのユニットIDを表示できます。

スタックのトポロジをリブートせずに変更することもできます。スタックのケーブルを再配置すると、GUIによって変更が検出され、それに応じて更新されます。

結論

自動番号付け機能は、ネットワークトポロジを設定し、スタック内のスイッチを自動的に割り当てる簡単な方法です。また、Web設定ユーティリティを使用してスタックのステータスを監視し、スタックの現在のトポロジを確認することもできます。